

9月浦部市議会後聴記

地方政治 クリエイト 伊藤 秀昭

浦部市議会9月定例会は8月30日に開会し、16人が多角度から一般質問を行った。

■次世代型ヘルスケアシティ
トップバッターで登壇した鈴木基夫氏(自由クラブ)は、昨年度の「再生医療サミット」などで「再生医療のまち浦部」であることを全国に発信し、全国の研究者、企業に定着してきていることを評価。ヘルスケア産業クラスターの育成には、産

学官の連携の必要性を強調した。

その具体的な施策として、市民病院に特定認定再生医療等委員会を設置し大学教授や医師との連携を図っており、鈴木氏は「市民病院での新たな診療を立ち上げるようなことを考えているのか」と再生医療の可能性を質問した。

当局は「浦部市民病院での再生医療の実施については、医師の確保や設備の確認などのスキームづくりができるかどうかをポイントであり、特化した医師の確保も重要。今後とも大学との関係を強化していく」とした。

「浦部の未来」に大いなる希望を抱かせた。質問だった。

地域の活力求めて、多角度から議論

■低調な空き家バンク

空き家の利活用と定住促進を目的として本年度、まだ活用できる空き家住宅の情報を登録していただき、市のホームページ上でリストを公開し、物件の大家さんや利用希望者の橋渡し(マッチング)をする空き家情報登録制度(空き家バンク)が始まった。

8月現在で物件登録件数は1件、利用登録者は6件で成約には至っていない。伊藤勝美氏(公明)は、災害救助法に基づき県が実施し、市がこれを援助する応急仮設住宅について、設定目標やその根拠、建設候補地などを質問した。

伊藤氏は想定目標と計画戸数の差異や応急借り上げ住宅への対応などを問題視し、仮設住宅の供与期間が、法律では2年以内となっているが最近の大震災では長期化する傾向にあり、良好な居住環境の維持に努めるよう要請した。

伊藤氏は福祉避難所の在り方も議論したが、東日本大震災の経験から、遊休農地解消の取り組みについて、産業環境部長は「もぐらの窓口」を開設し10・8秒の貸し借りが行われていると、今後は農地中間管理機構への貸し付けも積極的に進めていくとした。

「もぐらの窓口」を開設し10・8秒の貸し借りが行われていると、今後は農地中間管理機構への貸し付けも積極的に進めていくとした。

■農地の有効活用
大場康議氏(自民)は、農地面積が減少する中で遊休農地割合が3・5%前後で推移している現状から、遊休農地の活用について質問した。

遊休農地解消の取り組みについて、産業環境部長は「もぐらの窓口」を開設し10・8秒の貸し借りが行われていると、今後は農地中間管理機構への貸し付けも積極的に進めていくとした。

■応急仮設住宅

伊藤勝美氏(公明)は、災害救助法に基づき県が実施し、市がこれを援助する応急仮設住宅について、設定目標やその根拠、建設候補地などを質問した。

伊藤氏は想定目標と計画戸数の差異や応急借り上げ住宅への対応などを問題視し、仮設住宅の供与期間が、法律では2年以内となっているが最近の大震災では長期化する傾向にあり、良好な居住環境の維持に努めるよう要請した。

伊藤氏は福祉避難所の在り方も議論したが、東日本大震災の経験から、遊休農地解消の取り組みについて、産業環境部長は「もぐらの窓口」を開設し10・8秒の貸し借りが行われていると、今後は農地中間管理機構への貸し付けも積極的に進めていくとした。

■遅れているICT教育

牧野泰広氏(自由クラブ)は、浦部市のICTを活用した教育の現状について取り上げた。教育長は「教育用パソコンは595台、児童生徒数は6300人で、10・6人当たりで1台となっている。国の第2期教育振興基本計画では3・6人を基準としていることから水準を下回っている」とした。

牧野氏は「未来を担う子供たちのために前へ進めるべきだ」と次の質問に移したが、質問者も答弁者も小学校でコンピュータのプログラミング教育が必修化されていく時代の要請をどうとらえているのだろうか。危機感がなさすぎないか。

伊藤氏は福祉避難所の在り方も議論したが、東日本大震災の経験から、遊休農地解消の取り組みについて、産業環境部長は「もぐらの窓口」を開設し10・8秒の貸し借りが行われていると、今後は農地中間管理機構への貸し付けも積極的に進めていくとした。

■遅れているICT教育

牧野泰広氏(自由クラブ)は、浦部市のICTを活用した教育の現状について取り上げた。教育長は「教育用パソコンは595台、児童生徒数は6300人で、10・6人当たりで1台となっている。国の第2期教育振興基本計画では3・6人を基準としていることから水準を下回っている」とした。

牧野氏は「未来を担う子供たちのために前へ進めるべきだ」と次の質問に移したが、質問者も答弁者も小学校でコンピュータのプログラミング教育が必修化されていく時代の要請をどうとらえているのだろうか。危機感がなさすぎないか。